

椎の苗木通信



夢・力・花いっぱい

木城町立木城中学校

Tel 0983-32-2028

Fax 0983-32-4191

木城の明日を担う心豊かでたくましい人づくり

(木城町教育大綱の基本理念)

PTA 視察研究

7月3日(月)にPTA視察研修が行われました。午前中は宮崎学園高等学校を視察しました。校長先生の挨拶があり、担当の先生の説明がありました。今年3月に現役で東京大学に2名合格したそうです。県内における現役東大合格者数は、宮崎西高等学校8名、宮崎大宮高等学校が2名ということでした。

宮崎学園高等学校は礼節の時間があり、礼儀作法について学習する時間があるということで、全校的に落ち着いた雰囲気の中で生徒が学校生活を送っているということでした。

午後は、宮崎市にある宮崎県消防学校を視察しました。実地訓練の様子を見学することができました。当日は気温が高く、暑い中での訓練であったため、隊員の皆さんは大変だったと思います。とても充実した視察研修でした。



職場体験学習(2年生)

7月6日(木)・7日(金)の2日間に2学年の職場体験学習が実施されました。職場体験学習のねらいは、次のとおりです。

- #1 職場を訪問し、働く人たちの姿を実際に見聞することにより、望ましい職業観・勤労観についての理解を深める。
- #2 職業人・社会人としての厳しい生き方を学び、将来の生活への視野を拡大することにより、自己の生き方を考え、自己実現への意欲を高める。



2年生42名が体験した事業は、次のとおりです。『めばえ保育園』『どんぐり保育園』『愛生園』『海老原総合病院』『やの動物病院』『木城薬局』『木城町図書館』『木城郵便局』『小丸新茶屋高鍋店』『ジョイフル高鍋店』『コマド』『ファミリーマート木城中央店』『生活協同組合コープみやざき高鍋店』『しまむら高鍋店』『平田さん(農業)』『後藤さん(農業)』『岩切建設』17事業所です。生徒たちはこの期間に学んだことが多くあったと思います。

体育大会 結団式

体育大会を9月10日(日)に開催するに当たり、体育大会の意義や目的などを確認し、生徒の意識を高め、他学年の生徒と団結して積極的に体育大会に取り組もうとする態度をもつように、7月12日(水)の6校時に体育館で行われました。団の抽選があり、次のような団編制となりました。

➤ 青団 : 1A,2A,3A ➤ 赤団 : 1B,2B,3B



青団の団長は 3A の大山晴幸くん、赤団の団長は 3B の久家涼輔くんです。青団の副団長は 3A の鈴木萌香さん、赤団の副団長は 3B の林音々さんです。体育大会までの練習や準備、当日の運営に大きく関わる体育大会実行委員長は、3A の平木彩夏さん、体育大会副実行委員長は、2A の平元亮くんです。また、体育大会では、「みんなが心を1つにして力を合わせる」「精神を乱すことなく、全員が全力で向かっていく」「団結して目標に取り組んでいく」「各団が集中し頑張る」「1つ1つの競技に集中し全力を尽くす」などの思いから、本年度の木城中学校体育大会のスローガンは、

『一心不乱』になりました。

青団、赤団ともケガをしないように、切磋琢磨してよい思い出をつくってもらいたいと思います。

校長 雑感

木城中のちょっといい話

つい先日、校長室に1本の電話がありました。地域のお年寄りからのお礼の電話でした。

数日前に、その方がゴミステーションにゴミを出しにいったときのことで。鉄製のふたはお年寄りには重く、開けるのに苦労していたそうです。すると、遠くにいた中学生の男子がそれに気づき、走り寄ってきて、「重いですよ〜」と言いながら、ふたを開けてくれたのだそうです。

「とってもうれしかったです」、「遠くから走ってきてくれたんですよ」、「木城中の生徒さんは優しいんですね〜」と話しながら、何度も何度もお礼の言葉を述べられました。

私も、自分の学校の生徒がこんなに褒められ、うれしくてたまりませんでした。「誰だろう?」、「何年生かな?」とも思いましたが、敢えて名前は尋ねませんでした。木城中には、そんな優しい心をもった生徒、優しさを行動に表せる生徒がいるのだというだけで十分だと考えたからです。

このような生徒が一人、また一人と増えていくことで、「木城中の生徒は素晴らしい!」という声が、いろんなところから聞こえてくるようになり、そのことが、今、生徒会が取り組んでいる「よりよい木城中を創る」ことに他ならないのだと思います。逆に言えば、こんな身近なことから、木城中をよくしていくことができるのです。

中学生は家族や地域の方々に見守られながら生活しています。家庭や地域に育てられています。しかし、一方で、中学生にも家庭や地域のためにできることはたくさんあるように思います。この生徒が行った行動もそうだし、地域の方々へ、笑顔で元気なあいさつをすることも、それにつながります。以前いた学校でも、「中学生の元気なあいさつから、私も元気をもらいました」というお礼の言葉を頂いたことがあります。このような「元気の発信」は中学生ならでは、できることなのかもしれません。また、お年寄りの方は、小中高生から優しくしてもらうことを、こちらが想像している以上に喜ばれます。

これから、夏休みに入ります、地域で活動したり、地域の方々とお会ったりする機会も増えると思います。あいさつからでもいいです。自分たちにできることを見つけて、小さなことからでも取り組んでみてはどうでしょうか。

東日本大震災の時、釜石市では、中学生の避難行動を見て大人たちが避難を始め、その結果多くの命が救われました。中学生が街を救ったとして、「釜石の奇跡」と呼ばれ、語り継がれています。木城町でも、8/9(水)に、中学生を対象とした「防災ボランティア体験」が行われる予定です。参加して、防災力を身に付けておくと、もしものときに、地域や家族の役に立てるかもしれませんよ。